

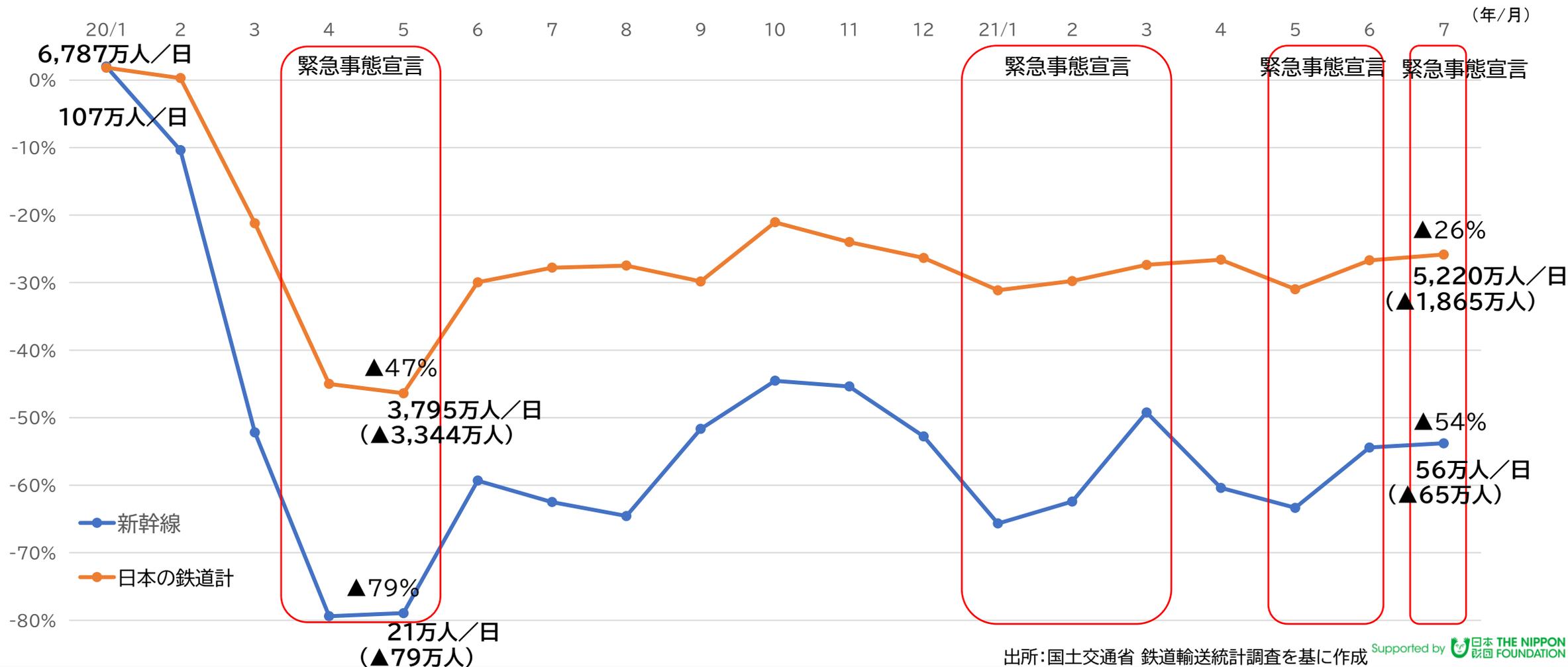
コロナ感染症が日本の鉄道 に与えた影響について

運輸総合研究所専務理事 ワシントン国際問題研究所長 奥田哲也



1. 日本の鉄道輸送状況

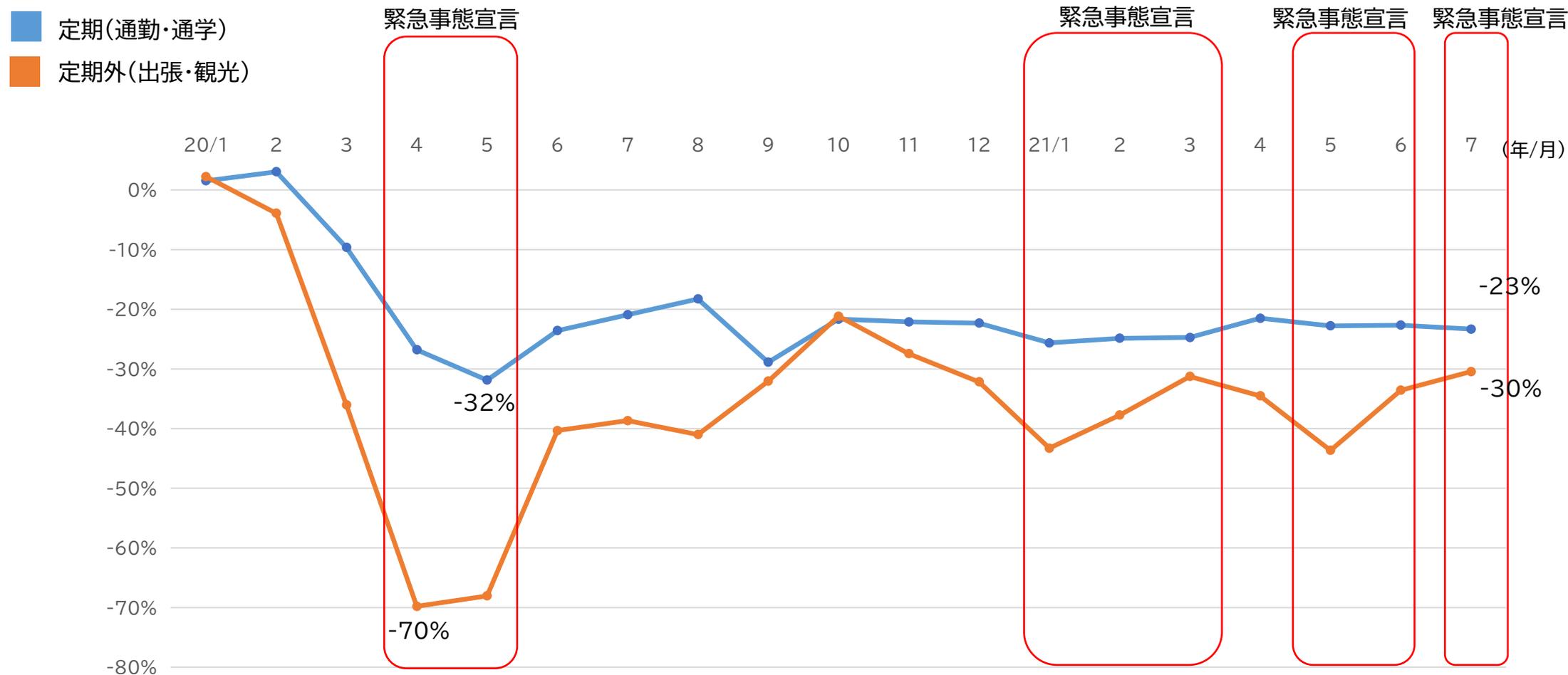
全国の鉄道輸送人員の減少率(2019年同月比)の推移をみると、2020年4月の1回目の緊急事態宣言により、2019年度比▲47%まで落ち込んだ。その後、▲20%~▲30%程度で推移している。新幹線は、1回目の緊急事態宣言により2019年度比▲79%、その後は、新幹線は▲50%程度まで回復している。



出所: 国土交通省 鉄道輸送統計調査を基に作成 Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

2. 目的別の利用状況

全国の鉄道輸送人員を、定期(通勤・通学目的)と定期外(業務・私事目的)とで分けて、2019年同月比で推移をみると、業務・私事目的のほうが、輸送人員の落ち込みが大きい。

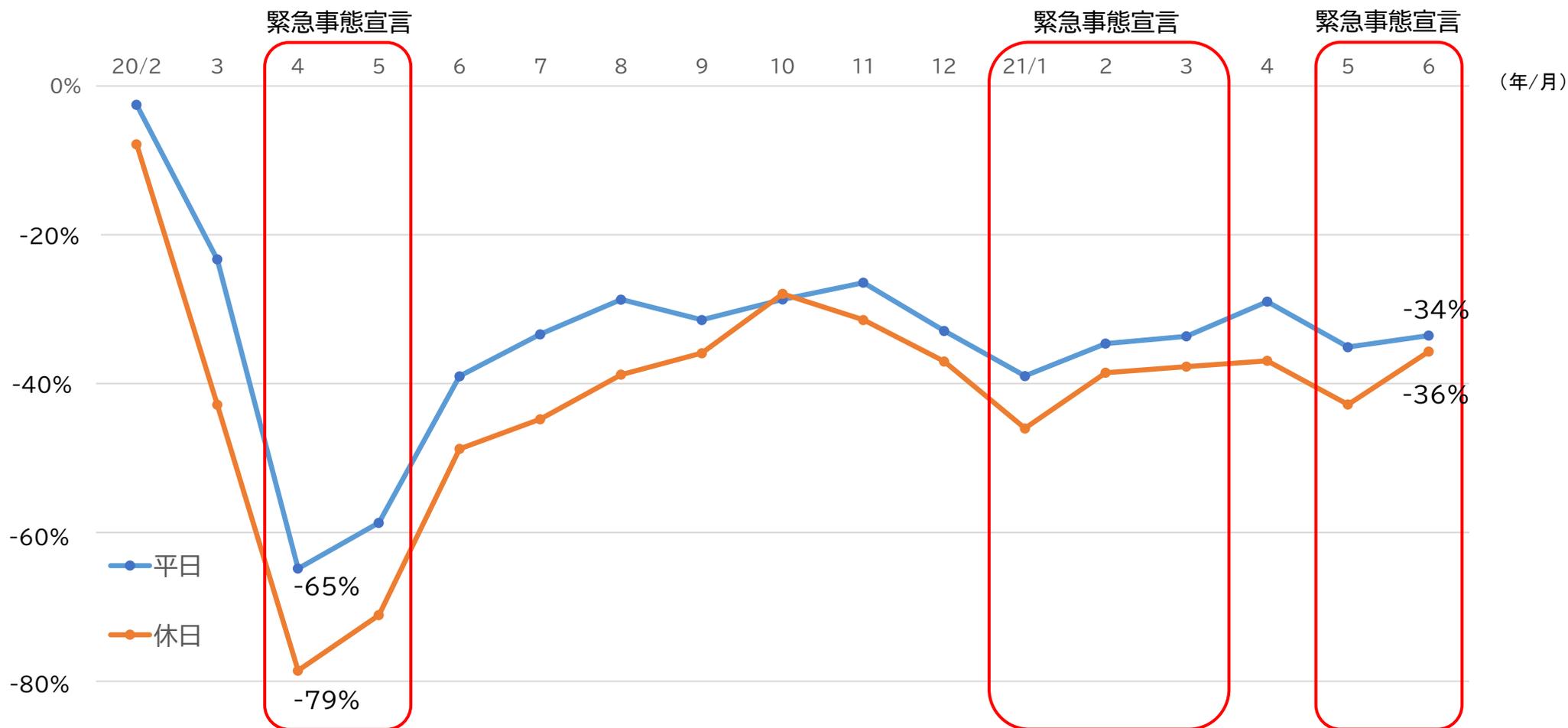


出所:国土交通省 鉄道輸送統計調査を基に作成

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

3. 平日と休日との比較

平日と休日との鉄道利用者の減少率(2019年同月比*)を比較すると、休日は平日と比べて減少率が高い傾向にある。

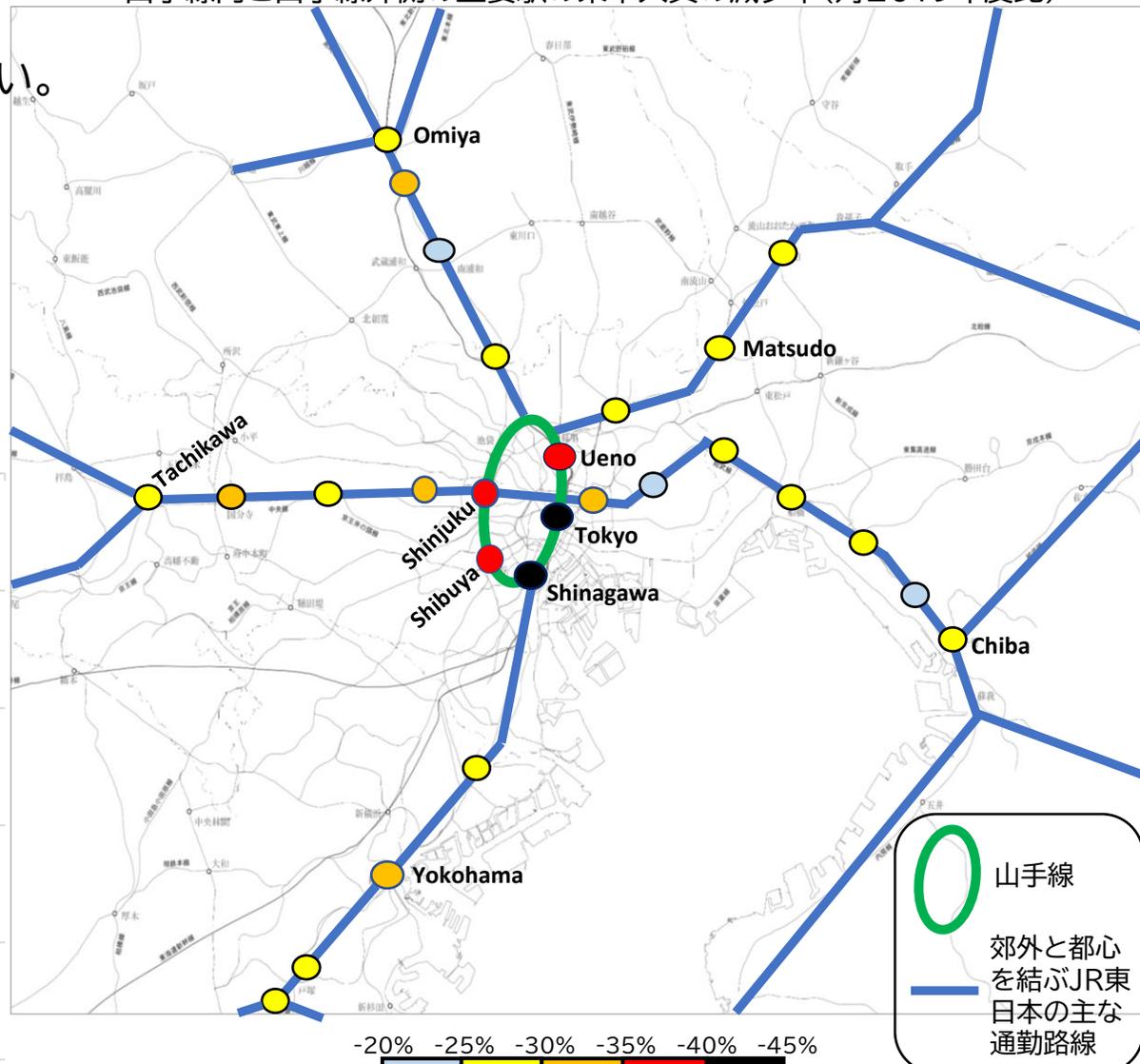
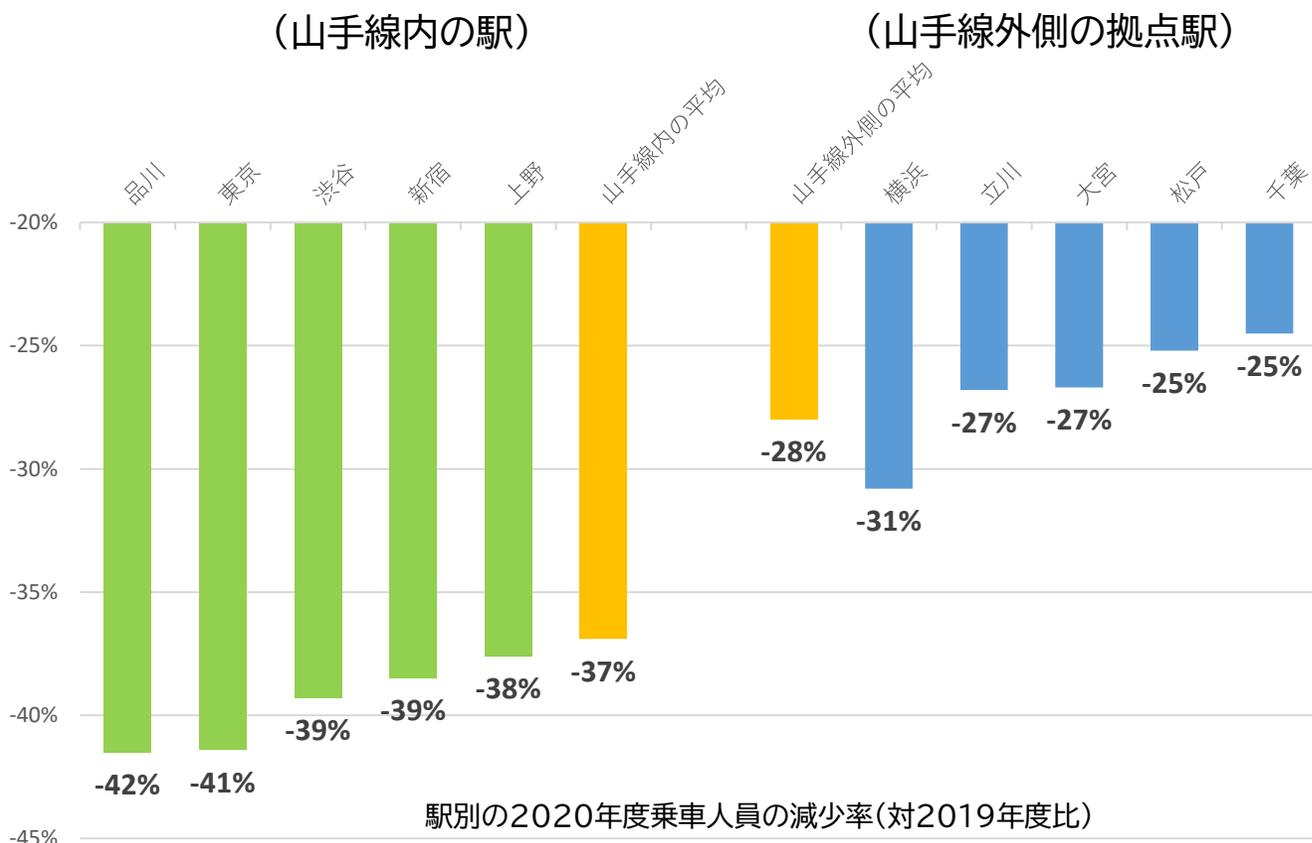


出所:首都圏6事業者の自動改札データを基に作成 Supported by THE NIPPON FOUNDATION

4. 都心部と郊外部との比較

2020年度の駅の乗車人員を2019年度と比較すると、山手線内に位置する駅の減少率は、山手線の外側の駅の減少率と比較して大きい。山手線にある交通ターミナル駅の減少率は40%前後であるが、郊外の拠点駅の減少率はそれより低い。

山手線内と山手線外側の主要駅の乗車人員の減少率(対2019年度比)



出典: JR東日本HP「駅別乗車人員ベスト100」を基に作成

※各通勤路線の主要駅の減少率を色別に表示